プレスリリース

2026年11月25日
フィリップ モリス ジャパン合同会社
一般社団法人RCF

「あおもり三八農業未来プロジェクト」成果報告会を開催
企業版ふるさと納税による寄附に対し、
八戸圏域8市町村の首長から感謝状を授与

生産性向上・作物のブランディング・人材確保ネットワーク形成など
全9プロジェクトを展開し、地域農業の持続可能な発展に貢献





フィリップ モリス ジャパン合同会社（本社：東京都千代田区、社長：コスタス・サルヴァラス、以下 PMJ）と一般社団法人 RCF（本部：東京都新宿区、以下RCF）は、青森県八戸圏域（八戸市・おいらせ町・五戸町・三戸町・田子町・南部町・階上町・新郷村）における持続可能な営農体制の構築を目指す「あおもり三八（さんぱち）農業未来プロジェクト」を2025年4月から推進してきました。このたび、プロジェクトの完了にあたり、2026年11月24日に青森県のSG GROUP ホールはちのへにて、成果報告会を開催しました。また、本プロジェクトに関連して実施した企業版ふるさと納税による寄附に対し、八戸市をはじめとする八戸圏域8市町村の首長からPMJへ感謝状が贈呈されました。

■事業概要

本プロジェクトは、高齢化や担い手不足、酷暑などに直面する青森県八戸圏域の農業支援を目的に発足し、生産現場が抱える課題に対し、約1年半にわたり伴走型の支援を展開してきました。

計画期間の完了に伴い開催した本報告会では、八戸市をはじめとする関係自治体の首長や青森県関係者が一堂に会しました。当日は、プロジェクトに参画した若手農家やPMJ、RCFの代表者が登壇し、自動操舵システムやロボット草刈機等の導入、情報発信やブランディング、地域ネットワーク形成など、プロジェクトを通じて得られた成果を報告しました。また、地域の農業課題へのさらなる支援として実施した企業版ふるさと納税に対する八戸圏域8市町村からの感謝状贈呈式が執り行われました。

■主な成果と取り組み

1.【スマート農業推進】先端技術・最新農機の導入による負担軽減と生産性向上

・RTK基地局の設置と自動操舵システムの導入（八戸市南郷地区）：

有機にんじん栽培において、地区内に位置補正用の「RTK基地局」を設置し、トラクターへ自動操舵システムを導入しました。高精度な直線走行によって播種位置を揃えることで、作物のすぐ脇まで安全に機械除草が行えるようになり、手間のかかる手取り除草を大幅に削減しました。なお、基地局は周辺農家も利用できる「地域の共有インフラ」としてプロジェクト終了後も継続活用されます。

・自動操舵付乗用管理機の導入（五戸町）：

有機にんじん・有機たまねぎ栽培において、自動操舵付の乗用管理機および播種機を導入しました。自動操舵が正確な直進走行をアシストするため、熟練度を問わず作物を傷つけずに精度の高い機械除草が可能になりました。これにより、除草時間を従来の3分の1に減少することができ、時期をずらした小分けの播種が可能となり、天候リスクの低減や、生産量拡大に向けた基盤を構築しました。

2.【ブランディング】ブランド価値の再定義とメディアを活用した魅力発信

・エビデンス構築と展示会出展によるブランド価値向上と産地の一体化（田子町等）：

高級ニンニク品種「美六姫（みろくひめ）」のブランド価値を再定義するため、他産地との味覚や香りに関する官能評価をはじめ、成分や糖度のデータ比較を行い、商品の特徴や差別化要素を客観的に整理しました。これを強みに首都圏の展示会「FOOD STYLE JAPAN 2026」へ出展し、飲食店や加工会社等との商談を通じて市場ニーズを収集しました。これまで関係者間でそれぞれが抱えていた不安や課題を共有し、今後の方向性について目線を合わせることで、品質基準の平準化や販路拡大に向けた取り組みを前進させました。

・地域メディアと連携した情報発信（全域）：

BeFM（八戸市を中心に地域情報を発信するコミュニティFMラジオ局）にて、生産者自身が出演する番組「さんぱち農業最前線」を制作・放送しました。現場で挑むスマート農業などの先進的な取り組みや、生産者自身の言葉で農業への思いを発信することで、地域内での知見共有にとどまらず、三八地域の農業の魅力を広く伝え、地域住民との接点づくりにもつなげました。

3.【人手不足対策】若手農家のコミュニティ創出とデータ共有による営農支援

・若手農家コミュニティの形成と勉強会の実施（八戸市）：

八戸市の若手いちご生産者5名によるチームを結成し、先進地の専門家を招いた勉強会や現地視察を実施しました。「環境の可視化による栽培管理の質向上」方針のもと、各ハウスへ環境センサー（温湿度・CO2・日射・土壌水分）を設置しました。スマートフォン上で全員の環境データをリアルタイムに共有・比較できる運用を開始したことで、ハウスへの往復時間や栽培管理における判断の負担を軽減しました。また、データに基づく知見やノウハウを互いに共有し合うことで、若手生産者の技術向上を促すとともに、生産者同士の連携を深めました。

■成果報告会における関係者コメント

＜フィリップ モリス アジア リミテッド （香港）　レギュラトリー & パブリック　ポリシー副社長 小林　献一＞

「PMJは、地域社会が抱える課題に寄り添い、その地域に必要とされる支援を長年にわたり行ってきました。今回の『あおもり三八農業未来プロジェクト』では、地域の皆さまとともに、生産性向上や地域産品の魅力向上、若手生産者同士の連携など、八戸圏域の農業が抱えるさまざまな課題に取り組んできました。こうした取り組みが、地域農業の持続的な発展につながっていくことを期待するとともに、本プロジェクトにご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。」

＜一般社団法人 RCF 代表理事 藤沢 烈＞

「本事業では三八地域の特色ある農作物について、労働力不足対応やブランド価値の創出等をめざして、9つの事業を展開しました。生産性の向上や新しいネットワークの構築といった成果につながり、三八地域が「攻めの農業」に転じる基盤を確立できました。本事業をご支援・ご協力いただいたすべての関係者の皆さまに感謝申し上げます。」

■「あおもり三八（さんぱち）農業未来プロジェクト」実施概要

活動期間：2025年4月～2026年12月

支援内容：全9件のプロジェクト実施（生産性向上、ブランディング、人材確保ネットワーク形成）

支援主体：フィリップ モリス ジャパン合同会社

運営団体： 一般社団法人RCF

あおもり三八（さんぱち）農業未来プロジェクト広報番組「さんぱち農業最前線」：

https://www.befm.co.jp/fm/new-program/sanpachi-2/

■実施主体

【フィリップ モリス ジャパン合同会社】

フィリップ モリス ジャパン（PMJ）は、フィリップ モリス インターナショナル（PMI）の日本における子会社です。1985 年に日本で営業を開始して以来、責任ある企業として、地域社会の持続的な発展に寄与すべく、ここ日本において様々な社会貢献活動を長きにわたり行ってまいりました。自然災害の被災地をはじめ、多様な課題を抱える地域に対して、専門的知識や経験を持つ NPO 等と連携し、必要とされている支援を提供しています。また、PMJ は様々な CSR 活動を通じて、より健全で持続可能な社会の実現に貢献しています。

▶これまでの被災地支援のあゆみ
https://www.pmi.com/markets/japan/ja/sustainability/action-nippon
▶会社HP
https://www.pmi.com/markets/japan/ja/company

【一般社団法人RCF】

2011年、東日本大震災を機に「RCF復興支援チーム」として設立。復興や社会課題解決事業の立案・関係者間の調整を担う「社会事業コーディネーター」として30以上の被災市町村、10社以上の企業とともに、40以上の社会事業に従事。フィリップ モリス ジャパン合同会社とともに、「いわて農業未来プロジェクト」「人吉球磨・農業未来プロジェクト」「あおもり三八農業未来プロジェクト」として、岩手・熊本・青森において農業の未来を創る事業の企画・推進を行っています。
▶団体HP
https://rcf311.com/

PMIの企業ビジョン：「煙のない社会」のグローバルリーダー

フィリップ モリス インターナショナル（以下「PMI」）は、「煙のない社会」の実現を目指し、長期的に紙巻たばこやニコチン以外の製品を含むポートフォリオの進化に取組む国際的消費財企業です。現在の製品ポートフォリオは、主に紙巻たばこおよび煙の出ないたばこ又はニコチン含有製品（以下「煙の出ない製品」）で構成されています。PMI の煙の出ない製品は、2026年9月30日時点で、世界で110市場における主要都市ないし全国規模で展開しており、2025年12月31日時点で、全世界で4,300万人以上の成人喫煙者（日本においては20歳以上、以下同）がPMIの煙の出ない製品を使用していると推定されています。煙の出ない製品に関連する事業は、PMIの2026年第3四半期において、純売上の40%を占めています。 PMIは2008年以降、160億米ドルを投資し、紙巻たばこの販売終了を目指して、喫煙を続ける成人喫煙者のために革新的な煙の出ない製品の開発、科学的実証、市販化を行っています。これには、特に前臨床システム毒性学、臨床・行動研究、市販後調査の分野における世界トップクラスの科学的評価能力の構築が含まれます。科学的根拠に基づく厳格な審査の結果、米国食品医薬品局（FDA）は、スウェディッシュマッチ社の製品General snusおよび経口ニコチンパウチZYN、ならびにPMI社の一部のIQOSデバイスとたばこスティックの販売を許可しました。これは、それぞれのカテゴリーで初めての許可となります。また、一部IQOSデバイスとたばこスティック、General snus、ならびに20種類の経口ニコチンパウチZYNも、初めてのリスク修飾(軽減)たばこ製品

（MRTP：Modified Risk Tobacco Products）としてFDAの許可を取得しました。ライフ・サイエンス分野における強固な基盤と重要な専門性を持つPMIは、ウェルネス分野への拡大を長期的な目標としており、シームレスな健康体験の提供を通じて生活をより豊かにすることを目指しています。
詳細は、PMI のウェブサイト（www.pmi.com）および PMI サイエンス（www.pmiscience.com）をご覧ください。

「煙のない社会」を目指すPMJについて

フィリップ モリス ジャパン（PMJ）は、PMIの日本における子会社です。日本で販売されるPMI製品のマーケティング・販売促進活動を行っています。PMJは1985年に日本で営業を開始して以来、事業拡大と成長を続け、全国に約1,600人の従業員を擁し、日本のたばこ市場で43.4%のシェア（2026年第3四半期決算）を有する、加熱式たばこを中心に市場を牽引する企業です。
PMJはPMIが掲げる「煙のない社会」を目指す取組みをここ日本で推進しています。「煙のない社会」の実現を目指し、加熱式たばこのみ利用可能な「煙のない」施設や観光地などを全国で広げる取組みを進めています。詳しくはPMJウェブサイトをご覧ください：
https://www.pmi.com/markets/japan/ja/home

＜報道関係者用問い合わせ先＞
フィリップ モリス ジャパン合同会社 広報事務局（電通PRコンサルティング 内）
齋藤 TEL：090-6483-9846 MAIL：daisuke.saito@dentsuprc.co.jp
井藤 TEL：070-1001-8432 MAIL：naonobu.ito@dentsuprc.co.jp